

藤平酒造合資会社

業種	製造業	事業所所在地	千葉県君津市	資本金	350千円
		売上高	～50,000万円	従業員数	7名

	被承継者		
	藤平 恵子	79才	※承継時
	承継者（左）		
	藤平 淳三	46才	※承継時

事業承継を行った時期	被承継者と承継者の関係		
2019年10月	子ども		
承継前の主たる事業の内容	承継前の主たる事業の課題		
清酒、焼酎、リキュール製造、販売	・新商品・新サービスの開発	戦後早くに建築し、昨年の台風で半壊するなどした老朽建屋（貯蔵倉庫等）が複数あります。その残された建屋を、今後増産したい純米酒系の戦略商品を貯蔵する冷蔵設備のスペースや麹部屋に転換して活用することが、生産性向上に結び付く解決策と考えています。	

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 16年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
20代後半で酒造りを杜氏から指導を受け、30才で兄弟による酒造りをスタートし、品質の強化、利益の出る体制を築く。その時から地元中心であった販路から、東京市場の販路確立、主要都市部の酒販店からの引き合いがあり、数年後には香港からの引き合いもあり、今ではアジア圏の国に取引先が増えるようになる。今から思うと、30才の決断が承継を意識し、具体的な行動を起こしていたと思う。	承継する前から、日々の業務を少しずつ引き継ぐようにしていたので、スムーズに承継はできたと思う。	被承継者の業務のほとんどを承継者に少しずつ引き継いでいたので、スムーズに承継できると考えていた。
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安
	関係者の付き合いも、承継する前から引き継いでいたので問題はなかった。	製造部門、販売部門に関しては、入社当時から経験が多かったが、経営、財務面は被承継者に任せていた面もあり不安があった。

これに一番苦労した！
取引銀行の口座名義、定款の変更など時間と手間がかかった。

事業承継について相談したこと	
相談した機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
商工会・商工会議所	今から思うと、もう少し早めに承継をできていればと感じた。漠然と近い将来に事業を引き継ぐのであろうと思っていた。5～10年前は、事業承継という言葉もあまり使われず、具体的なサポートや説明などなかったように思う。2～3年前にこの事業承継補助金制度を知り、このタイミングで承継しようと行動に移した。
いつから相談？	
承継実行の 2年前	
相談のきっかけ	
以前から取引や付き合いがあった	

経営革新等に係る取組の標題

低アルコール純米酒「お米のワイン」の開発と海外販路開拓

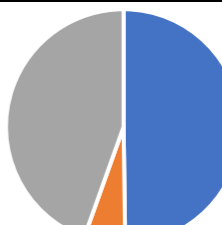
経営革新等に係る取組の内容	新商品の開発又は生産
---------------	------------

●近年、純米酒系日本酒の需要が若年層や海外で伸び続けているが、醸造酒の中でもアルコール度が17度前後の日本酒は、世界的に見てもアルコール度が非常に高いとされている。一方で、同じ醸造酒であるアルコール度13度前後のワインは、国内外で需要が高い。国も日本酒文化復興への支援を強化する環境の中、当社の独自製法でアルコール度10度以下の低アルコール純米酒の製造に取り組む。

●そこで、本補助金を活用して、戦後の米不足時の清酒増産事業のために建てた老朽化した施設を解体して、麹部屋に改装するとともに新たにコンテナ冷蔵庫を導入した。これにより、伝統的な醪（もろみ）を十分発酵させる工程を大事にしながらワインと同程度のアルコール度13度まで下げ、日本酒本来の旨みを保つ製法に辿り着いた。

●今後も、この製法をベースとして、原料米の種類や精米歩合、麹の種類や管理方法を変え、顧客が驚くバリエーションを創造し続けることで、外国人や若者に人気の低アルコール純米酒「お米のワイン」を開発して海外販路の開拓を目指す。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
30才～50才台のターゲット女性や海外バイヤーも多く集まる都内の有力酒販店主催の試飲会や、有楽町で毎年開催される千葉県酒造組合主催の「千葉の酒フェスタ」に参加し、「福祝」ブランドの認知とファン獲得に努めており、これまでに多くの酒販小売店とご縁が繋がりました。また、千葉県は農業県でありながら、近年、農業の衰退が身近に感じられるようになり、「千葉日本酒活性化プロジェクト」を通じて飲食業者、農業者と連携した地域振興、農業振興にも貢献できることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設備費 ■ 委託費 ■ 廃業費 
	経費の主な使い道
	設備費：コンテナ冷蔵庫導入費 委託費：事業計画策定コンサル費 廃業費：倉庫・蔵内解体費

認定経営革新等支援機関の名称：千葉銀行 久留里支店			
認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施

事業の実施のための融資

今後に向けて～次の目標	
2020年から2023年に向けて	純米酒系の酒造りは、国内で1,000社を超える競争の中にありますが、消費者や酒販店から当社の取組みを高く評価されてきており、技術力に自信が深まってきました。千葉県は農業県でありながら、近年、農業の衰退が身近に感じられるようになり、「千葉日本酒活性化プロジェクト」を通じ、飲食業者、農業者と連携して地域振興、農業振興にも貢献できることが励みになり、親から引き継いだ資産を最大限活用し、地域密着の生産活動を成長させたいと考えました。海外からも「福祝」が求められることを励みに、国内での競争に対応しつつ、海外の売上割合を6年後には30%にまで高めて成長を続ける蔵を目指します。
売上高	120 %UP

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
引き際のタイミングときっかけが必要。	着々と準備、計画が大事だと思います。